

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：32611

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320044

研究課題名(和文) ドイツ・フォークトランドにおける楽器製造の歴史と現状に見る伝統継承と地域再生

研究課題名(英文) Transmission of Tradition and Local Regeneration as Seen in the History and Current Situation of Musical Instrument Manufacturing in Vogtland, Germany

研究代表者

片岡 雅子(横井雅子)(Kataoka, Masako)

国立音楽大学・音楽学部・教授

研究者番号：00383688

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,900,000円、(間接経費) 2,970,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ドイツ・フォークトランド地方とチェコの西ボヘミア地方で17世紀頃から続く楽器製造が、伝統に立脚しつつ20世紀末に起きた体制転換やそれに伴う社会変動にいかに対応し、地域再生が叫ばれる現代においてどのような将来像を描こうとするのかを考察することを目的とした。今回は楽器産業を通して当該地域の歴史や地域性を考察することを主眼とし、音楽学、歴史学、地理学の共同研究の形をとった。ドイツ側では大小の問題を抱えつつも楽器製造と観光業を結びつけた地域再生が展開される一方、チェコ側では楽器製造に頼りながらも人材育成もままならず、楽器製造の歴史を打ち出して地域の特性を謳うにほど遠い現状が浮かび上がった。

研究成果の概要(英文)：Vogtland, Germany and west Bohemia, the Czech Republic are both known as the hub of musical instrument production. People's lives there had been supported by musical instrument production. However, through the historical turning points, the difference between the two countries has become clearer. We conducted our research in three places in both countries.

We recognized differences arising in recent years. The biggest difference is that towns in Germany has its own museum of musical instruments reflecting the local characteristics. While in the Czech Republic, although there were several collections of musical instruments, they were no longer open to public. We also found a difference in the transmission of musical instrument manufacturing techniques. In Klingentahl, Germany, there is a vocational school for musical instrument manufacturing. In Czech side, the school in Kraslice is no longer functional, while one in Luby was incorporated into the school in Cheb located farther south.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：楽器製造 地域再生 観光産業 伝統継承

1. 研究開始当初の背景

研究代表者の横井は、平成 20～22 年度科学研究費補助金（基盤研究 C）による研究「楽器におけるわざ学の伝承とグローバル化」（研究代表者：田中多佳子）の一部として、平成 21 年 9 月にドイツのフォークトラント地方において研究代表者と共に短い現地調査を実施した。この時の当地での調査は地域的にも時間的にも極めて限定的ではあったが、その中からも社会主義体制をとっていた東ドイツ時代とは異なる楽器製造の様子をうかがい知ることができ、併せて同地が文化産業としての楽器製造を打ち出そうとしている有様の一端に触れたことから、かつては稀な楽器製造の地であったこの地域を包括的に扱い、一時の衰退を経て再び楽器製造によって発信しようとしている現状の考察も試み、また、歴史的に連続し、近年の報告が極めて限定的である西ボヘミア地方での楽器製造の様子を調査する必要性を感じた。

2. 研究の目的

この研究は、隣り合う旧東ドイツ・フォークトラント地方とチェコの西ボヘミア地方（ここではこの両方を便宜的に「フォークトラントと周辺地域」と称することにす）の市町村で 17 世紀頃から続いてきた楽器製造が、歴史的経緯を踏まえた伝統に立脚しつつ 20 世紀末に起きた体制転換やそれに引き続く社会変動にいかに対応し、「地域再生」が盛んに叫ばれる現代においてどのような将来像を描こうとしているのかを考察することを目的として立ち上げられた。

この主題の研究における目的意識として、当初、以下の 4 点を想定した。

(1) 楽器産業の起源と言われるボヘミアの

宗教難民から、EU 拡大後の現代の両国の人的交流までの流れを、音楽学、歴史学、地理学の視点から捉え、説明を試みる

(2) 特定の楽器製造でその町の特色を打ち出すに至った経緯を、産業構造と音楽嗜好の変化の両面から考察する

(3) 17 世紀に各種の手工芸的な楽器製造が始まったが、社会主義時代にも個人工房が生き残り、それが体制転換後の地域復興につながった実態を解明する

(4) わざの伝承を体系的に行うことが古くから意識され、現在は産学連携の動きもある人材育成の在り様を追究する

3. 研究の方法

本研究は音楽のためのツールである楽器を取り上げてはいるが、楽器そのものが音楽行為の中でいかに用いられ、どのような音響を発するかという音楽的営為を明らかにすることを目的とはしておらず、むしろ楽器産業を通して当該地域の歴史や地域性を考察することを主眼とした。そのため、上記の目的意識の で触れたように、音楽学の他、歴史学、地理学の研究者との共同研究の形をとった。

4. 研究成果

フォークトラント地方ではクリンゲンタール、ツヴォータ、マルクノイキルヒェンの計 3 か所、西ボヘミアではクラスリツェ、ルビ、ヘプの計 3 か所での現地調査を実施した（資料調査に関しては、これら以外の地域も含まれる）。これらの場所は非常に近い位置関係にあり、歴史的に人的な交流もあったことが知られているが、現在の様相はドイツとチェコにおいてかなり異なってきたことが理解できた。

ドイツ、チェコともに社会主義体制から続いている比較的規模の大きい楽器製造会

社があるが、1989年の体制転換後にいずれも大幅に従業員を削減して現在に至っており、世界の楽器メーカーの中でシェアが小さいことを考え併せると、その将来は楽観できないという点が共通している。

一方、近年になって立ち現われてきた相違も確認できた。最も大きい違いは、ドイツ側の三つの町にはそれぞれに地域の特色を映し出す楽器博物館があり、また楽器製造の技術を伝承する教育機関が機能している一方、チェコにも複数の楽器コレクションがあったが、いずれも公開されなくなっていた。また、楽器製造のための専門学校の一つは既に機能を停止し、もう一つは離れた町の職業専門学校に統合されており、将来的な見通しが暗いことが確認できた。

ドイツ側では楽器産業と結びついたイベントも複数行われており、「楽器製造の地域」を標榜した地域再生が軌道に乗っていることが実地に確認することもできた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

(1)加賀美雅弘「フォークトランド地方の地域再生にとっての野外博物館」『東京学芸大学紀要人文社会科学系』 65 23～34 ページ

(2)横井雅子「チェコ・西ボヘミア地方の楽器産業の様相」『音楽研究 国立音楽大学大学院研究年報』第 26 輯 33～40 ページ

(3)森太郎、白石美雪、横井雅子「クリンゲントール国際アコーディオン・コンクールの歴史と現状」『国立音楽大学研究紀要』第 47 集 165～171 ページ

(4)横井雅子、森太郎「フォークトランド周辺地域における楽器製造の歴史と現状 予備調査から見る問題点」『国立音楽大学研究紀要』第 46 集 137～143 ページ

〔学会発表〕(計 2 件)

(1)横井雅子、薩摩秀登、白石美雪「フォークトランド周辺地域における楽器産業の様相」2014 年 11 月 10 日 東洋音楽学会第 64 回全国大会(静岡文化芸術大学)

(2)加賀美雅弘「ドイツ・フォークトランド地方における野外博物館と地域再生」2012 年 7 月 22 日 日本地理教育学会第 62 回大会(麗澤大学)

〔図書〕(計 1 件)

『ドイツ・フォークトランドにおける楽器製造の歴史と現状に見る伝統継承と地域再生 研究報告書』(2014、私家版。全 64 ページ)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1)研究代表者

横井 雅子 (YOKOI Masako)
国立音楽大学音楽学部教授
研究者番号：00383688

(2)研究分担者

加賀美 雅弘 (KAGAMI Masahiro)
東京学芸大学教育学部教授
研究者番号：60185709

薩摩 秀登 (SATSUMA Hideto)
明治大学経営学部教授
研究者番号：70211274

白石 美雪 (SHIRAISHI Miyuki)
武蔵野美術大学造形学部教授
研究者番号：60298023

森 太郎 (MORI Taro)
国立音楽大学音楽学部准教授
研究者番号：40335782

(3)連携研究者

金 宰永 (KIM Jae Young)
東京藝術大学アジア総合芸術センター助
手 当時
研究者番号：50650826